



長門の話題

Topics

仙崎公民館指定管理開所式

地域住民が主体の公民館へ

平成28年4月から指定管理者制度を導入する仙崎公民館で、4月1日(金)、指定管理開所式が行われ、管理運営を行う仙崎振興会(沓野昭次会長)関係者や地域住民ら約80名が参加しました。

開所式では管理運営者を代表し、木村和義仙崎振興会副会長が「本日より地域住民が



▲4月より採用された職員(左から木下主任、神谷館長、久村係員)



▲地域住民も開所式に駆けつけた

協力、連携し合って、仙崎地域の発展促進や産業、経済、文化などについて、地域住民の総意に基づいた事業活動を展開し、地域活性化が図られることを期待しています」とあいさつしました。

続いて大西市長から「地域住民の総意により仙崎振興会が発足し、指定管理者として本日を迎えることができうれしく思います。公民館が主体となったまちづくりへ大きく前進するものと期待しています」とエールを送りました。

仙崎公民館は仙崎振興会が指定管理者として指定管理を受託し、事務局は神谷信好館長、木下進悟主任、久村亜沙美係員の3名体制で運営され、当面の指定管理期間は平成28年度から平成30年度までの3年間となります。市内の公民館で指定管理者制度が導入されるのは俵山公民館に続き2カ所目となります。

三隅川鮎放流事業

いつまでもきれいな川を

4月10日(日)、三隅川で鮎の放流が行われ、三隅保育園や宗頭幼稚園の園児、市内の小中学生とその保護者ら約100人が参加しました。

三隅川の鮎放流は今年で21回目の開催で、三隅地区の中央を流れる三隅川の9カ所で約1万匹の鮎が放流されました。



▲願いを込めて鮎を放流

三隅保育園・宗頭幼稚園の園児が「僕たち私たちは三隅川をきれいにします。ゴミは絶対に捨てません」と三隅川環境保全宣言を大きな声で宣言した後、子どもたちがバケツに入った鮎を持って一列に並び、「三隅に帰ってきてね」と願いながら一人ひとり鮎を川に放ちました。



▲三隅保育園や宗頭幼稚園の園児など約100人が参加

長門のPeople

物語を、群青色の絵の具に乗せて。

中島綾美さん

平成28年3月、中島綾美さんの描いた5枚の絵画が、内閣府の自殺対策強化月間イメージ動画に採用され、期間中、ホームページ上で公開されました。

「星の糸」と題された動画では、悩む青年に知人が手を差し伸べたことで、青年の心が癒え、二人を包む糸が輝いて星になるという物語が描かれています。物心ついたところから絵に興味を持っていったという中島さんは、高校入学後に市内在住の画家、尾崎眞吾さんに師事。現在



(武蔵野美術大学4年 / 油谷河原出身)

は大学で日本画を専攻し、絵本制作にも取り組んでいます。日本画は岩絵の具を膠で接着させて描く伝統的な技法が用いられます。「温かさの中にどこか切なさを覚える作品を」と、中島さんは絵画に物語を込め、群青色を多く使って思い描く世界観を形にしています。

5枚の絵を描き上げた時、何とも言えない達成感を味わったという中島さん。「将来は、絵本や挿絵で児童文学に携わりたい」と夢を描いています。



▲3月6日(日)、「Art Market Renaissance 2016」に出店した中島さん

旬な人

「産前産後サポートステーション」開設

4月1日(金)に長門市保健センター内に妊娠・出産・子育ての悩みや不安に対応する総合相談窓口「産前産後サポートステーション」が開設されました。今後、マタニティケア事業やケアヘルパー派遣事業、育児相談などの各種サービスが実施されます。

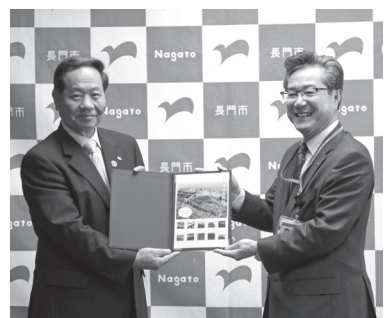


▲子育て世帯に選ばれるまちに

地域の魅力を切手で発信

4月18日(月)、元乃隅稲成神社を題材としたフレーム切手の販売を記念して長門市役所で贈呈式が行われました。

贈呈された大西市長は「切手として全国に発信されることにワクワクしている。多くの観光客が来るのではと期待しています」と話しました。



▲切手で長門市をPR